

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業に係る面談

2. 日時：令和3年10月7日(木) 16時05分～17時15分

3. 場所：原子力規制庁18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、正岡管理官補佐、大辻室長補佐、

知見主任安全審査官、高松専門職、久川係員、高木技術参与

福島第一原子力規制事務所(テレビ会議システムによる出席)

小林所長、廣岡原子力防災専門官、木村原子力運転検査官、

坂本原子力運転検査官、田中原子力運転検査官、藤原技術参与

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 担当1名(テレビ会議システムによる出席)

福島第一原子力発電所 担当8名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替え作業について、資料に基づき以下の説明があった。
  - 低線量HIC(1基目)移替え作業で得られた情報について
  - 移送前後のHIC内スラリーの状態について
  - 低線量HIC(2基目)移替え作業の検討状況について
  - 高線量HICの移替え作業に向けたスケジュールについて
- 原子力規制庁は、上記説明内容を確認するとともに、本件については次回の特定期原子力施設監視・評価検討会において議論することとした上で、以下のコメントを行った。
  - 低線量HIC(1基目)移替え作業(以下「今回作業」という。)で得られた情報について、今後の高線量HIC移替えに向けた安全対策を検討する際にどのようなことを確認する必要があるのかを示した上で、今回作業において確認できなかった事項については、低線量HIC(2基目)移替え作業において、どういった考慮が必要なのかを整理して示すこと。また今回の作業において得られた情報から、低線量HIC(2基目)移替えの安全対策に反映すべきことについても示すこと。
  - 今回作業において、HICの構造上、スラリーを全量抜き出すことができなかったとのことだが、未使用のHIC底部構造を直接確認する等を行った上で、全量抜き出すことができなかった原因を整理すること。
  - 今回作業におけるスラリー移送量(上澄み水含む)及びポンプ運転量から得られた情報についても示すこと。
  - 低線量HIC(2基目)を選定する際に、HIC内のスラリー量を推定するにあたっては、今回作業で得られた結果を反映した上で検討すること。
- 東京電力から、コメントについて検討の上、検討会に向けて対応が必要なものについては、適切に対応する旨回答があった。

6. その他

資料：HIC スラリー移替え作業の状況